



1：生物の概要

- ・ 知床半島は冷温帯北部に位置し、千島列島につながる亜寒帯との境界部といえる。冷温帯性の生物と亜寒帯性生物とが混在し、海の生物も含めて、豊かな生物相に特徴がある。
- ・ 植物 約900種（希少種約100種）
- ・ 哺乳類 56種
- ・ 鳥類 281種
- ・ 爬虫類 8種 など

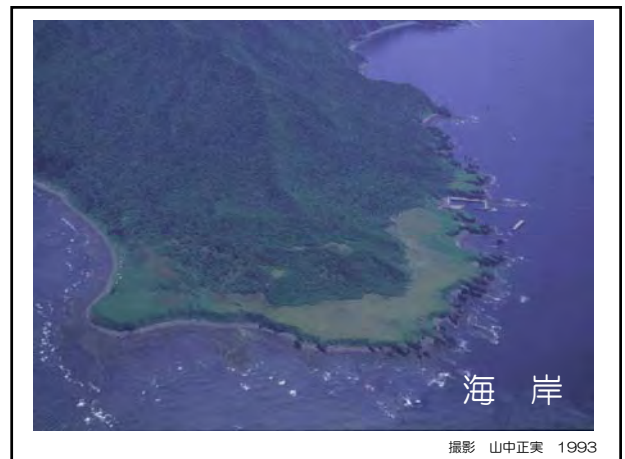
データブック知床・2010より

- ・ 2005年に日本で3番目の世界自然遺産に登録された。



高さによる変化（垂直分布）の様子

- ・ 高山帯
- ・ 亜高山帯
- ・ 低地帯（山地帯）
海岸植生



高山植物の分布 (ガンコウラン)



1980年代初頭の知床岬の海岸草原 (北海道 1981年 より引用)

知床半島における群落配置の特徴

植生帯	標高域	群 落 タイ プ					
		森林群落	湿原	草原	開草地	岩礫地	海岸
高山	1100 m 以上	ハイマツ群落 (ミヤマハシノキ林)	ニつ池 知床池	雪田			
亜高山	700~1100	ダケカンバ林 (常緑針葉樹林) (ミヤマハシノキ林)	扇石湖				
山地	0~700	針広混交林 (常緑針葉樹林) (ダケカンバ林)		知床岬 など	斜里町 に多い		
海岸							

2005年世界自然遺産に登録された



面積 71,000ha
陸域 48,500ha 海域 22,500ha

知床世界自然遺産候補地保護管理計画 (2006) より引用

2：世界自然遺産登録とその後の課題

- ・ 知床は、流水が育む豊かな海洋生態系と、原始性の高い陸域生態系の相互関係に特徴があり、オオウシ・オジロウシ・シマフクロウといった世界的な絶滅危惧種の重要生息地となっているという点が評価され、登録基準に合致する可能性が高いと判断されました。
- ・ この価値を保全するためには陸域と海域を含めた統合的な管理計画の策定の必要性について、今後の課題として指摘がありました。

斜里町 HPより

IUCNの指摘と日本側の対応

- ・ スケトウダラなどの保護とそのための海域保護
→ 漁業者による自主管理と、海域管理計画の策定
- ・ サケの保護と河川工作物の撤去
→ 不要な河川工作物の検討と撤去
- ・ シカの保護と、許容できる範囲内で人為的介入を最小限にするための植生の指標化。
→ エゾシカ保護管理計画による管理

科学委員会の役割

知床の自然環境を把握し、科学的なデータに基づいて海域と陸域の統合的な管理を行うために必要な科学的助言を得るために、2004年7月8日に設置された学識経験者や行政機関で構成される会議。

目的別に3つのワーキング・グループ（WG）

エゾシカWG：

「エゾシカ管理計画」策定に当たっての科学的助言

海域WG：

「多利用型統合的の海域管理計画」策定に当たっての科学的助言

河川工作物WG：

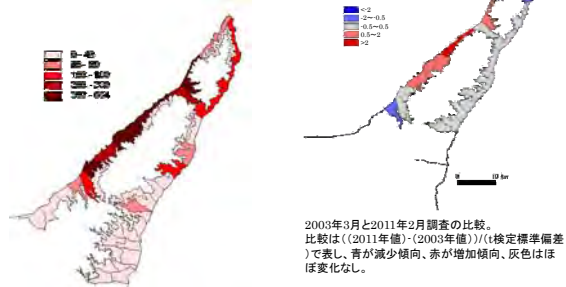
河川工作物のサケ科魚類等に対する影響評価及び改良方法に関する科学的助言

環境省HPより

エゾシカWGでの取り組み

- エゾシカ保護管理計画の策定（2006年11月）
- エゾシカのモニタリング
 - 季節移動調査、自然死個体数分析、生息動向調査
- 植生への影響調査
 - 広域採食圧調査、
 - 海岸部の希少種と在来種調査、
 - 岬での採食調査と回復試験地調査、
 - 高山帯への進出調査、
- 個体数調整

3：植物群落の現状



ヘリコプターによるエゾシカカウント数
(2011年2月)

エゾシカの越冬地は標高約300m以下
(斜里側に多く、羅臼側では小規模)



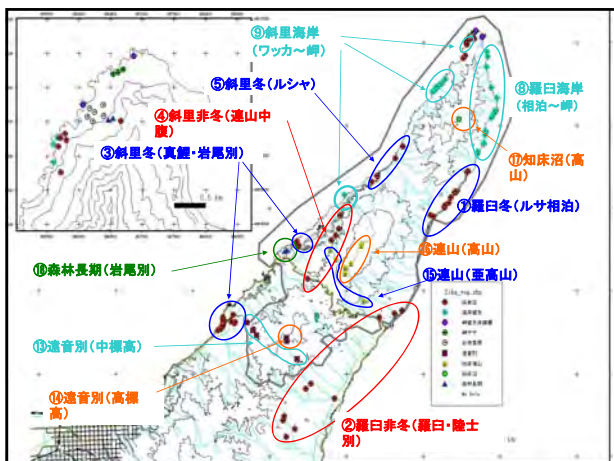
スライド14とほぼ同じ場所の2009年の状況
(高茎草本がなくなり、ヤマアワ、ハンゴンソウなどの単純な群落に変化した)



シカによる樹皮剥ぎの一例（ミスナラ、知床岬 2005年）



下枝の消失、ササの採食と不食草であるシラネアザミの増加



知床半島における採食圧の実態 (2008版)

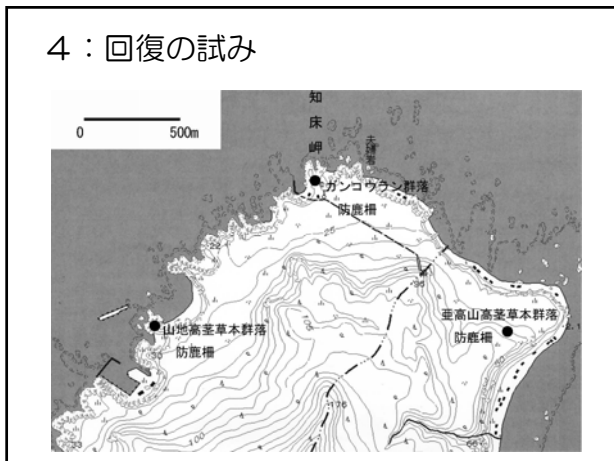
植生帯	標高域	群落タイプ					
		森林群落	湿原	草原	風衝地	岩壁地 岩峰	海浜
高山	1100以上	ハイマツ群落 (ミヤマハシノキ林)	二つ池 知床沼	雪田	シレット スミレ		
亜高山	700～1100	ダケカンバ林 常緑針葉樹林 ミヤマハシノキ林	羅臼湖				
山地	0～700	針広混交林 (常緑針葉樹林) (ダケカンバ林)		羅臼側 カムイ ワッカ	斜里側		
海岸		越冬地 針広混交林		知床岬 フレバ			

採食圧 ■: 強い ■: あり ■: なし、ごく軽微

シカによる採食圧の概要

- 高山帯 (知床岳、知床連山、遠音別岳)
ハイマツ群落の優占 (採食はほとんどない)
雪田、湿原に採食痕、風衝地にも進出が懸念される
シレットコスミレの採食
- 亜高山帯
森林主体で、枝葉の採食、軽度の樹皮剥ぎ、林床採食
- 山地以下
越冬地 (針広混交林、海岸草原) で強い影響
森林での下枝、稚樹の消失、特定の種の消失、林床植生の変質
草本群落の消失、
外来種、不食種、海浜植物の優占

27



ガンコウラン群落



まとめ

- 知床半島全域、特に低標高域でシカの採食による強い影響が顕在化している。
- 越冬地を中心に森林と海岸植生が大きな被害を被っているが、海岸植生には遺存群落も多い
- シカを排除すれば回復の傾向は顕著であるとともに、密度調整も効果を表しつつある。
- フレペ地区でも防鹿柵を用いた回復の試みを実施することは、環境教育の面でも意義が大きい。